

十四日以内に

113

(四)

款	9月未現計 予算額 (A) 千円	收入落額 (自4月 至9月) (B) 千円	百 分 比		差引増減(△) 千円
			$\frac{B}{A}$	$\frac{B}{C}$	
競馬事業收入	363.060	159.312	43.9	100.0	203.748
繰越金	100	0	0	0	100
合 計	363.160	159.312	43.9	100.0	203.848

(表15、16参照)

昭和二十九年
収支決算の状況
(表17) 18参照

款	9月未現計	支出(自4月)	百 分 比		予 算 残 額
	予 算 額	済額(至9月)			
	(A)	(B)	B A	B C	
	千円	千円			千円
競 馬 事 業 費	334.775	139.299	41.6	100.0	195.476
諸 支 出 金	28.085	0	0	0	28.085
予 備 費	300	0	0	0	300
合 計	363.160	139.299	(C) 38.4	100.0	223.861

(表 19) 歳 入

款	当初予算額	9月末現計予算額
	千円	千円
国民健康保険税	2,098	2,098
一部負担金	43	48
使用料及び手数料	2	2
国庫支出金	1,218	1,218
県支出金	228	223
雑収入	84	84
繰入金	300	300
歳入合計	3,978	3,978

(表 20) 歳 出

款	当 初 予 算 額	9 月 末 現 計 予 算 額
	千円	千円
事業費	3,887	3,887
予備費	91	91
歳出合計	3,978	3,978

以上國民保險特別令に、藝四、六九元、關關係一、六九元がのびります。またこれに要況、並びる動向及びその轉じられ、決定の概況をお知らせして、後算の概況をお知らせしましたが、もともとの事は、このうち自己負担一、八〇元（旧町村が兼ねておいた）と、國保事業負担三、二六四元（新設した）と、他負担六八元となつております。また昭和三十年度前期の事業費は、昭和二十九年七月末日合併と同時に訂離たもので、現在の事業の適用場所は旭岡のものに限られてゐるのあります。

この機会にその事業を利用状況を簡単にお知らせします。昭和二十九年度において利用総数六、一二〇名、この記を甲上げます。入院二〇名、療養院下であります。

二、住民負担の概況

昭和三十年度におきます市税の予算額は、一億六千五百円です。これは一般計の歳入増進予算額に対して四一・四分を占めており、本市一般計の歳入の猛昇なつておるのを期するものと見えます。特にこの期までの次とこれを合算すると、歳出としてあります。

(2) 昭和三十九年度
収支決算の状況

歌	予 算 額 (A)	収 入 済 額 (B)	予算に対する差 引過不足(△)額	百 分 比	
				$\frac{B}{A}$	$\frac{B}{C}$
国 民 健 康 保 險 税	1,720	1,604	△ 116	93.3	47.9
一 部 負 担 金	88	4	△ 84	4.5	0.1
使 用 料 及 び 手 数 料	1	1	0	100.0	0
国 庫 支 出 金	1,060	1,227	167	115.8	36.7
県 支 出 額	155	388	233	250.3	11.6
雑 収	2	122	120	610.0	3.7
市 債	500	0	△ 500	0	0
歳 入 合 計	3,526	3,346	△ 180	94.9	109.0

(表 24) 歲 出

款	予 算 額	予備費 補充額	予 算 現 額 (A)	支 出 済 額 (B)	百 分 比		不 用 額
					B A	B C	
事 業 費	3,460	△ 26	3,486	3,272	93.9	100.0	214
予 備 費	65	△ 26	39	0	0	0	39
歳 出 合 計	3,525	0	3,525	3,272 ^(C)	92.8	100.0	253

四、財産公債
及び一時借
入金現在高
(一) 財産

種 別	土地坪数	土地価格	建物坪数	建物価格
行 政 財 産	122,280.8	147,321	20,850.50	539.010
企 業 財 産	24,265.14	24,205	1,695.37	40.081
合 計	146,545.72	171,586	22,545.87	579.091

(表 28)

公 債

(表 27)

証 券 及 び 金 員

費 目	9 月 末 現 在 負 債 額 千円	左 の 借 入 先 別 内 訳				
		大 蔵 省	郵 政 省	神 奈 川 県	市 中 銀 行	そ の 他
教 育 費	58,728	21,312	216	—	37,200	—
産 業 経 済 費	3,646	3,646	—	—	—	—
社会及び労働施設費	45,743	21,743	8,300	—	15,700	—
災 害 復 旧 費	10,920	10,743	—	177	—	—
戦 災 復 旧 費	62,433	56,833	5,600	—	—	—
企 業 費 (競輪)	25,000	—	—	—	25,000	—
そ の 他	3,230	—	—	—	1,100	2,130
合 計	209,700	114,277	14,116	177	79,000	2,130

種 別	基本財産	一般財産	企業財産
証 券	—	1,621	150
金 員	—	—	—
合 計	—	1,621	150

五 び び

三 一 時 借 入 金

この公債を市民一人当りにした
します。三、二九四であり、ま
た一世限り一四、六四二の本
市は借金をしてゐることになりま
す。(表28参照)

以上をもち昭和二十九年年度決算
状況、及び昭和三十一年年度の財
政状況を知らせました。私共
は、この財政の適正な運営、健全
財政への建直しのため努力を
しておりますが、この目的達成のた
めには市民皆さんの深い御理解と
御協力がなくては到底できません
のであります。

どうか本市財政の発展を御奨励下
さいまして、市政伸展のため益々
御協力賜ふことをお願いして
す。第十五回平塚市財政事情を記す。

(表 29)

一 時 借 入 金

月 別	一 般 会 計			特 別 会 計		
	借 入 額	償 還 額	差引現在額	借 入 額	償 還 額	差引現在額
4 月	32,000	15,000	17,000	9,500	9,000	500
5 月	30,000	4,000	43,000	10,500	10,500	500
6 月	33,000	5,000	71,000	25,000	25,000	500
7 月	20,000	5,000	86,000	10,000	10,000	500
8 月	16,000	6,000	96,000	—	—	500
9 月	7,000	13,000	90,000	8,000	8,000	500
合 計	138,000	48,000	90,000	63,000	62,500	500

附 録

競輪・競馬事業の概況について
では、まずこの財政事情の二、特
別会計について、お知らせし
たところで、更に昭和三十
一年度一般会計に繰入れた、競輪
競馬事業収益金の使途について
御案内します。

この年度一般会計の繰入額は、
額は、一〇五、九八千円、決
算総額の二四%を占めています。
この内容は、

競輪 七二、二九千円
その使用内容を説明しますと、現
在の市庁舎の西側に、木造平屋建
の庁舎を増築した費用として、役
所費、五七、二九千円、隣接財団の
合併による旭地区の消防力の充実
のため、消防三輪自動車三台の購
入費として、消防費、三、八四
千円、市道の新設、或は、拡張
のための土木費、三、七〇九
千円、警備小舎の増築費として、

競馬 三三、七七千円
競馬事業収益金の使途説明をわ
けますが、なお深く御理解をいた
さないと、誠に遺憾を感ずる
ので、御参照下さい。

昭和 2 9 年 度 競輪・競馬事業収益金のゆくえ

